

大規模災害としての新型コロナ感染症が 小中学生の不登校増加に与えた影響 および不登校者の声に関する質的分析

Influence of Covid-19 pandemic on rapid increase of School Refusal among elementary,
and junior high school in Japan: A Qualitative study

崎坂 香屋子 Kayako Sakisaka 土田 美桜 Mio Tsuchida

開智国際大学 国際教養学部 Kaichi International University, Faculty of International Liberal Arts

— 概 要 —

国内における新型コロナ感染症は2022年12月時点で第8波と呼ばれる感染拡大状況にあり、終息に向かっているとはいいがたい状況である。それに伴い、2020年春頃から続く学級閉鎖や遠隔授業は小中学生における不登校者の急増を招いた。本稿ではツイッターから不登校に関するつぶやきを拾い、不登校者や保護者の心情や実態のデータ化を試み、新型コロナ感染症が若年層に与えた影響について調査報告する。

はじめに

新型コロナ感染症の感染者数や死亡は再び増加している(2022年12月)

新型コロナ感染症は日本において、ワクチン接種の普及にもかかわらず感染は減少どころか2022年12月時点で第8波といわれる感染拡大と死亡率においては欧米諸国よりも多い水準でいまだ続いている(図1)、さらに2022年11月の時点では、国内旅行支援の開始と継続により、観光地での感染の増加も続いている。さらに乳幼児、学童を含む若年層へのワクチン普及が遅延していることや若年層でのワクチン接種による副反応への回避行動も顕在化しており、若年層における感染が拡大している。これらから新型コロナ感染症が終息に向かっているとはいいがたい状況にあり、2020年春ごろからの学校閉鎖や遠隔授業の継続、ソーシャルディスタンスの確保と励行は、小中学生における不登校者の急増を招いた。小中学生における不登校者の数は2021年から2022年にかけて史上最も多い約24万人となっている(図2)。

しかし不登校者の不登校の理由は多様で実態の把握は簡単ではない。そこで本稿では、個人を特定できないこと、あくまで個人的な短い呟きにすぎない制約のあるものであるが、比較的若年層でも利用が高いツイッターから不登校に関するつぶやきを拾い、不登校者や保護者の心情や実態を可能な限り明らかにしようとした。個人や投稿者が特定されないために全文ではなく関連部分を抽出、また全体の意図を正しく伝える形で要約する方法でデータ化を試みた。さらにそれらを可視化することで、新型コロナ感染症が若年層に与えた影響を客観的に明らかにした。

1. 研究方法

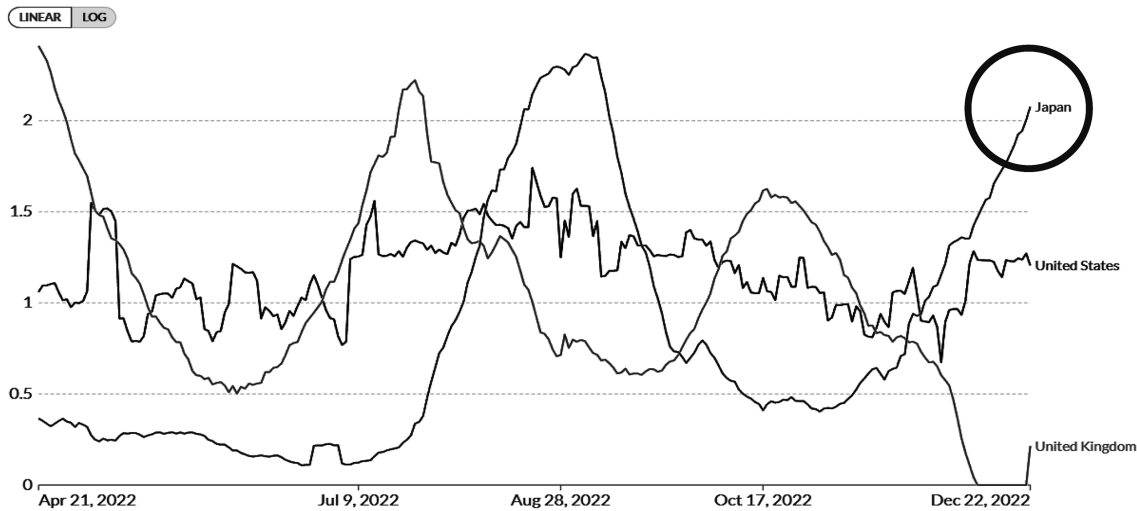
本稿では2021年から2022年12月の間のいわゆるコロナ禍の間に投稿された多数のツイッターから以下のキーワードで検索を行い、259のツイッターを分析することとした。

キーワードは「不登校 コロナ」「不登校」「元不登校」「元不登校 私」「不登校 その後」「不登校 辛い」「不登校 出口」「不登校 アメリカ」「不登校 不利益 私」とした。抽

Daily new confirmed COVID-19 deaths per million people

7-day rolling average. Due to varying protocols and challenges in the attribution of the cause of death, the number of confirmed deaths may not accurately represent the true number of deaths caused by COVID-19.

Our World in Data



Source: Johns Hopkins University CSSE COVID-19 Data

CC BY

図1 人口100万人当たりのコロナ感染死亡率日米英比較(2022.12.22時点)

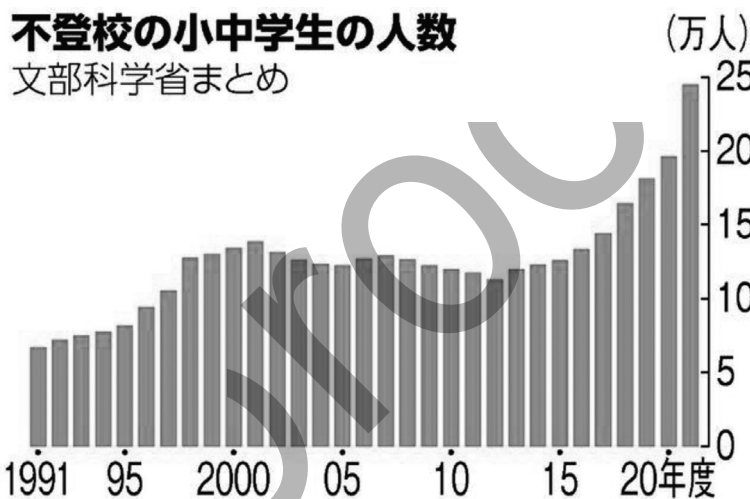


図2 2021年度までの不登校の小中学生の人数(24万4千人超えに)
文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査:
文部科学省(mext.go.jp) データを改変(令和3年度結果 2022年10月27日発表)

出方法として、ツイッター全文ではなく、また「不登校」に関連する部分のみを取り出したものもある。

2. 結果

本調査では総数259のツイッターを「新型コロナウイルスと不登校」「当事者の声」「不登校を経験した者のその後の声」の3つに分類し、それぞれの詳細(表)を提示した他に、各分類を質的回答の特徴を抽出するために Userlocal テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>) のソフトを用いて分析した。

(1) コロナ禍と不登校

多数の「眩き」の中で、コロナ禍は、それ以前から不登校の傾向にあった生徒たちに「不登校」のハードルを下げ、休みやすい環境を提供した。その一方で、不登校の時期は、生徒らの精神的緊張を下げることはなく、「心の休まることのない」時間であったことも明らかになった(表)。さらにいったん不登校になった生徒が、一定時間の欠席ののちに登校した場合、周囲の生徒が温かく迎えるとい

表 コロナ禍での不登校 当事者らの声

<p>コロナ禍と不登校</p>	<p>コロナ禍でなかなか会えなかった人と久しぶりに会って軽い気持ちで様子を聞くと、不登校やメンタル系トラブルを打ち明けられる確率がやたら高いのはなんなんだろう。</p> <p>コロナ禍で不登校が増えたのは「そこまでして登校しなくて良い」と考える人が増え、学校に行きたくない子が顕在化しただけの事だと思います。学校が楽しいと感じる子もいますが、退屈で理不尽で窮屈で不愉快と感じる子もいます。</p> <p>コロナの影響で、学校教育の変革が求められている。学校が再開した今、例えば、通信制高校のように、週1か月1の登校日で、必修科目や実習の授業を受ける体制や登校せずに教育を受けられたら、どれだけ不登校の子ども達が救われるだろう。</p> <p>日本のコロナ対策は、マスクやワクチン、自粛などを続け、多数の不登校や自殺者を生み出した、と思う。</p> <p>コロナになると起こること 10選 ・喉が痛くなる、物凄い寒気が襲ってくる、鼻水、鼻づまりが酷くなる、ときどきぶっ倒れる、味をあまり感じなくなる、ずっと寝ていたくなる、動きたなくなる、宿題が溜まっていく、休むと授業が分からなくなる、そして不登校に。</p> <p>コロナ禍の3年、オンライン教育メインとなった2年間の影響は、とても大きい、おそらく「社会」の人が想像している以上に。不登校や精神疾患、対人関係トラブルが以前よりものすごく多くなってる。</p> <p>私もコロナで色んな意欲が削がれちゃって不登校で追い討ち。このダブル鬱鬱、パーッと晴らせたいのに。</p> <p>不登校気味だった高2の時、あと1回休んだら留年確定する授業があったんだけど、コロナが流行って「みんな出席停止にして欠席にならないようにするから、体調不良者は休んでください!」のお達しが出たおかげで留年回避できた。</p> <p>コロナを理由に不登校のハードルが下がった。</p> <p>コロナ時代になって不登校が目に見えて増え、学校でも「不登校の親の会」とかを毎月開催するようになった。全体的に、ひとりひとりのこどもに丁寧に対応してくれるようになった感がある。</p>
<p>当事者の声</p>	<p>不登校になるまでは学校は曜日決めて行ってたかな。嫌いな先生の授業がある日は休んだり。後は気分次第。無理したら倒れるし体調不良だもん。</p> <p>学校行くと幻聴聞こえたり吐き気と目眩が止まらなかったし勉強もできなくて精神状態がやばくなって行くのをやめた。</p> <p>不登校の子にも学校に行けないことを申し訳なく思ってる生きろ、みたいなことを求めてくる人が一部いるんだよね。不登校でも人生楽しく生きる権利はある。</p> <p>「ゴミを見るような目で見られる」。やっとの思いで顔を出したら他の先生やクラスメイトからの視線が突き刺さった。</p> <p>不登校になった頃僕は生きるか死ぬかのレベルの話をしてた。周りは必死に学校に行くか、行かないか勉強をするか、しないか話をしてた。</p> <p>不登校の子は何も努力してない?それは違う。努力の限界を超えて心身のバランスが壊れちゃった子が不登校になってしまうんだと思う。</p> <p>登校しても不登校の私は腫れ物扱いはされるだけだよ。喋りかけてもくれないよ。自分に何て言ってもあげたらいいんだろ。</p> <p>普通に学校行っているうちは「遅刻しないで毎日登校、宿題は必ず」と厳しく守られる。でも不登校や心不調になると突然「頑張りすぎず休むことも大切」という風に周囲ががらりと変わる。その差が大きすぎる。</p> <p>弱音や泣き言を言える相手がない自分がツライ、『何でも話せる学生時代からの親友』という関係を持つてる人が羨ましい</p> <p>いい子で 真面目で がんばり屋さん。これ以上、頑張ったら心も身体も 壊れちゃうよ、のサインが不登校なんだ。</p> <p>意外に見守るという愛情は愛情深くないとできない。中学生で亡くなったおばあちゃんが学校に行かない私をせめるわけでもなく何か話すわけでもなくただそばにいてくれた。それだけで自分は存在しているのだったと思えた。それくらい外の世界では自分が存在していることが怖かった。</p> <p>不登校って 何から苦しめられるんだろう。なんであんなに辛い気持ちが押し寄せてくるんだろう 周りの目? 不安?まだわからない。</p> <p>学校に行きたいのにいけない気持ちがわからないでしょと言いたい。朝になると動けない。 どうしたら行けるようになりますか。元不登校の人に聞きたいです。どうやったら良いのですが。 行きたくないなら行かなくて良い。はもう嫌なんです。</p>
<p>不登校者のその後</p>	<p>不登校初期は勉強の価値が分からなくなります。不登校になったばかりの頃は劣等感でいっぱい、自分なんか頑張っても無駄だと考えてしまうのです。時間が経てばある程度マンになるので、しばらく様子を見ましょう。</p> <p>不登校は休み方を知らない子が多いです。学校は休んでいても、劣等感や後ろめたさで心が休まっていけない場合があります。これでは何日学校を休んでも心が回復しません。心を回復するためには安心できる環境が必要です。</p> <p>不登校に必要なのは「心のエネルギー」です。心のエネルギーが無いと、体力があったとしても動き出すことが出来ません。心のエネルギーを貯めるには学校を意識させるものが少ない環境で休むことが必要だったと僕は思います。</p> <p>高1の頃、中学3年間不登校だったから分数の計算すら忘れてできなかった状態から中学数学も一から全て独学で頑張って勉強して、ある程度結果出した時は凄く嬉しかったのを覚えている。</p> <p>2年前の今頃、私は家にいてもなんだか落ち着かなくて、ずっとスマホしてダラダラしてたなあ。ダラダラして生きてる意味あるのかな?って思ったけど心を安定させる一つの方法だよって過去の自分に教えたい。</p> <p>学校行ってないから、楽だね??と言われることあったけど 楽ではなかった。特に気持ち的に私の場合は 学校に行くということがあたりまえにできないこと でなぜ?みんながしていることできないの? とか、自分を責めたりして 辛く、しんどい期間が長かった。</p> <p>昔、無理矢理学校に行っていたのは無駄だったなと思っている。今、私が他の人と居る事は、一種の奇跡だ。 その奇跡にたどり着いたときは無茶苦茶に嬉しかったんだよ。ただ私は、私に起きた奇跡を、奇跡で終わらせたくない。</p> <p>兄は成績よく、いい大学へ。 私は不登校で、通信高校へ。 わかってるけど、比べられる。悲しい。理解ある家族けど何気ない会話の中で普通の人生ルートを望んでるのが分かる。「普通」になんか縛られたくないのに。</p> <p>私は、中1の時イジメで不登校になりました。母が38歳の時です。当時イジメの事は誰にも言えず、母は毎日泣いていました。一緒に死のうと何回も言われました。そこまで苦しめていました。ごめんなさいを何回言っても足りません。今日、私は当時の母と同じ38歳になりました。</p> <p>不登校って〇〇しちゃダメ系の情報が多い。だけど、それを一度疑ってみてほしい。 全部が全部目の前のその子に当てはまるかなんてわからないし、性格や信頼関係次第なことも多い。</p> <p>いつか不登校や精神疾患に関わる活動がしたい。そんな夢が叶ったら、私の過去はプラスになるし、過去の私に伝えたいなあ。</p> <p>私が学校を休んでいた時、登校していない日やできていない事(勉強、部活、学校行事など)ばかりを考えていました。すると、できない事ばかりに目がいって、自分は何もできない人だと、自分で自分を決めつけていました。</p> <p>不登校からの復活の定義を“進学”とする方が時々います。そして、不登校経験者も復活の象徴として、大学進学等を大きく示しがちです。しかし、復活したの後に 何をやるかが実は大切なことなのに。</p> <p>全日制高校から通信制高校への転学は思いの外簡単でした。不登校で留年するより早く次のステップを考えられるのでお勧めです。</p>

うことは必ずしも簡単なことではなく、よそよそしい態度や心無い声掛けなどが生じていたことが眩きからは見て取れる。

もちろん、温かく問題なく迎えられた生徒も多数いるのだろうが、眩きはしばしば、辛さや不満をぶつける場になっていることが多い、ポジティブコメントは書き込まれにくい傾向があることも考慮しなければならぬ。しかし複数の眩きに見られるように、「久しぶりに会ったらメンタル系トラブルを打ち明けられる確率がやたら高い」「オンライン教育メインとなった2年間の影響はとて大きい。おそらく社会の人が想像している以上に不登校や精神疾患、対人関係トラブルが以前よりもものすごく多くなってる。」

「私もコロナで色んな意欲が削がれちゃってそれが不登校で加速した」のとおり、コロナ禍が生徒児童らの心の健康に大きな負担をかけていたことが見て取れる。コロナ禍は感染症に罹患した者のみでなく、学校閉鎖・学校休校が多数の生徒の元気さやエネルギーを奪った可能性は否めない。

(2) コロナ禍と不登校当事者

本稿ではコロナ禍で多数となった学校不登校者の心情や生活に焦点を当て、不登校が当事者にどのような苦勞、苦悩を与えているかを具体的に分析する。表および図に示したように、「学校行くと幻聴が聞こえたり吐き気と目眩が止まらなかった」などの重篤な心身への具体的な症状に言及しているものもある。他方「いい子で真面目でがんばり屋さん。これ以上、頑張ったら心も身体も壊れちゃうよ、のサインが不登校なんだ。」「不登校の子は何も努力してない？それは違う。努力の限界を超えて心身のバランスが壊れちゃった子が不登校になってしまったらと思う。」等、「不登校が自分のところを守る砦」となっていたことが明らかにしていた。しかし、不登校の間に、のんびり休めているかという点とは正反對の、「本来学校へ行くべき自分」がそれができない「脱落感」にさいなまれ、「気の休まらない」時間を過ごしている生徒が多かった。

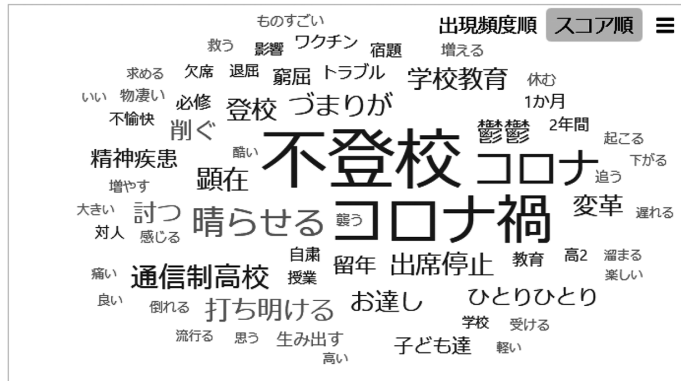
(3) 不登校経験者からのメッセージ

他方、ツイッターには、過去に不登校であった者からの投稿も見られた。それらは苦し

かった経験、として眩かれた内容が多く、その経験が役立ったという眩きは今回の調査ではほとんど見られなかった。「不登校になっただばかりの頃は劣等感でいっぱい、自分なんか頑張っても無駄だと考えてしまうのです。時間が経てばある程度マシになるので、しばらく様子を見ましょう。」「不登校に必要なのは心のエネルギーです。心のエネルギーが無いと、体力があつたとしても動き出すことが出来ません。心のエネルギーを貯めるには学校を意識させるものが少ない環境で休むことが必要だったと僕は思います。」等、時間がたつてから振り返っても、学校を意識させるものの中では休息が困難であることが示されていた。

実際、今回「不登校 よかった」で検索したが、1通もツイッター内でヒットしたものはなかった。これらにより「不登校」の経験は若年層のエネルギーと時間を奪うこと、本来行くべき学校に行けていない、という「気の休まることのない」環境の中での時間を過ごしている生徒は多く、「不登校」の時間に「心のエネルギー」をためることは困難であるこ

コロナ禍と不登校



不登校者のその後

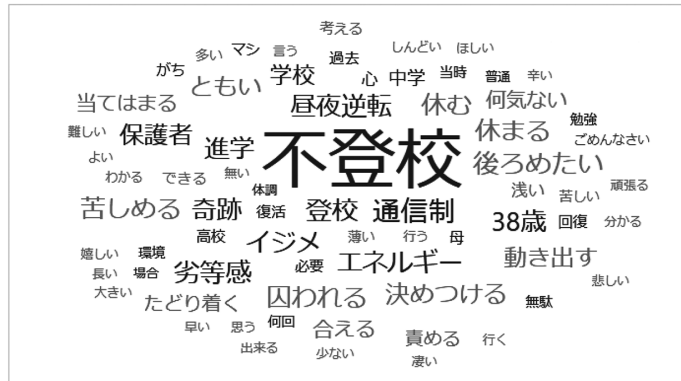


図3 コロナ禍の下の不登校と不登校者のその後の比較結果

とが示唆された。家族も同様に、学校に復帰することを重要視することが多く、学校から離れてこころの休息の時間とするには「不登校」の時間を本人以外が、何らかの支援する必要がある。

(4) 可視化された結果から
 経験者と現在の声に大きな相違はない
 図3に示された通り、コロナ禍であっても、それ以前であっても、不登校者あるいは過去に不登校であった「不登校経験者」にとつても「つらい経験」を示すような投稿内容が多くを占めた。過去に不登校であった人の投稿でも、コロナ禍の下での「不登校」者と大きな相違は見られなかった。「後ろめたい」「劣等感」「イジメ」「囚われる」などの用語が多くそれらと他と比較して大きな文字で示されていた。これらの分析結果から、コロナ感染症拡大で急増した「不登校」からの脱出は容易なものではないことが示唆された。ツイッターでは出口戦略に関し、専門家らしき層からの投稿も多数あるが、当事者からの投稿ではアドバイス、助言等の投稿は少なかった。

本課題については現在日本の小中学校の「つ「集団教育」「全科目を平均的に学ぶ」「学校選択、転校の自由の幅が狭い」等の学校教育の欠点」がコロナ禍で析出した可能性がある。米国などのように多民族、多様な宗教、背景のある生徒が集まる国で重視されている「自分に合う学校を選ぶ」「国籍、言語別の個別アドバイスが各校に配置」、登校困難な場合の「ホームスクール」等の柔軟な採用が処方箋になる可能性がある。

注釈

なお本原稿作成に当たっては日本学術振興会 (JSPS) 「大規模災害後の災害弱者の孤立化防止のための避難フェーズ別効果的介入モデルの開発」(20K02191) [研究代表 崎坂 香屋子] の支援を受けています。